

滋賀県長浜市に雨森芳洲記念館がある。彼の生誕地だ。雨森芳洲は江戸時代を代表する外交官で、一級の国際人だった。生誕地から京都、江戸、長崎、対馬、釜山へと活動の場を広げ、学問と外交教育に生涯をささげた。芳洲は対馬藩で朝鮮外交を担当した。儒学や漢文に精通し、朝鮮語を話すことができた。後に日本初の朝鮮語の辞典を完成させた人物でもある。中国語も会話ができた。来日した朝鮮通信使は語学力に驚き、称賛した。芳洲は「隣国と交わるには、その国の言葉を理解



雨森芳洲記念館

大垣精工会長 上田勝弘

することが大切」と考えた。言語を通して民族文化の平等を尊重する姿勢を生涯の信条とした。

1990年、来日した韓国の盧泰愚大統領は宮中晩餐会で天皇陛下にあいさつし、「約270年前、芳洲は誠意と信義を信条とした」と述べた。しかし日本側の多くは芳洲を知らなかった。この出来事を機に芳洲の名が知られるようになった。

芳洲と同門で、江戸幕府の中枢で活躍した新井白石は歴史教科書にも登場する。白石は中央エリート官僚で、芳洲は地方官僚であったため、知名度に差が生まれた。

朝鮮通信使の外交は室町時代から続いた。1607～1811年に12回来日した。約450人が釜山から対馬、九州、瀬戸内、大阪、京都を経て東海道を通り江戸へ向かい、大垣にも立ち寄った。芳洲も2回、接待役兼通訳として同行した。

大垣市でも芳洲記念館を訪れる人は多くない。私は韓国から来社する学生らに機会があれば記念館へ同行し「温故知新」「誠心の交わり」「互いに欺かず争わず、真実をもって交わるべき」との芳洲精神を紹介している。